

目次

はじめに

二

一章 「私は女だから」——振り回されて

『夏祭浪花鑑』お辰——お飾り女性と清涼剤

一四

『鎌倉三代記』時姫——姫は何不自由なのか？

二四

『一條大藏譚』常盤御前——『義経ママ』の猷身

三四

『女殺油地獄』お吉——女性の親切心と自己防衛

四四

二章 「私はこの家に生まれたから」——身分にとらわれて

『野崎村』お光——「フツウの女の子」の結末

五六

『桜姫東文章』桜姫——「置かれた場所」で咲くお嬢様

六六

『三人吉三』おとせ——不幸の「因果」を受け入れる

七六

三章 「私は囲われている身だから」——ままならなくて

『籠釣瓶花街酔醒』八ッ橋——純粹な少女が花魁になったら

八八

『曾根崎心中』お初——愛を阻む金銭問題と世間体

九八

『源氏店』お富——『かわいそう』ではない囲われの身

一〇八

四章 「私は働いているから」——悩みも尽きなくて

『番町皿屋敷』お菊——社内恋愛で相手の愛を信じられるか？

一二〇

『加賀見山旧錦絵』尾上——陰湿いじめに心が折れても

一三〇

『伽羅先代萩』政岡——母モード・仕事モードのスイッチ

一四〇

五章 「私たちは女同士だから」——争いや友情も生まれて

『心中天網島』おさん・小春——妻と愛人が結ばれる「義理」

一五二

『梅ごよみ』米八・仇吉——パチエラーから解放されること

一六二

『妹背山婦女庭訓』「道行恋苧環」「三笠山御殿の場」

お三輪・橘姫——RPGと女子のトリセツ

一七二

六章

- 「私はこんな外見だから」——ルッキズムに苛まれて
「身替座禪」玉の井——本当に不美人だったのか？ 一八四
「伊勢音頭恋寝刃」お鹿——イジリではなくイジメ？ 一九四
「日本振袖始」岩長姫——悩める神様の本当の願い 二〇四

七章

- 「私は母だから」——子どもを守りたくて
「菅原伝授手習鑑」千代——置き去りの母親たち 二一六
「妹背山婦女庭訓」「吉野川の場」定高——一番の理解者・母への試練 二二六
「袖萩祭文」袖萩——「イクウーメン」とは言われない 二三六
「東海道四谷怪談」お岩——ワンオペ育児にみる母性と父性 二四六
おわりに 二五九

コラム「○○な女」

- 「闘う女」お園 五四
「気付かない女」お里 八六
「諦観する女（男）」お嬢吉三 一一八
「人智を超えた女（雌）」葛の葉 一五〇
「赦したい女」お幸 一八二
「誘惑する女」雲の絶間姫 二一四
「待ちくたびれない女」るん 二五八

・演目名は通称で表記している。
・相関図は一部抜粋、簡略化して記載。人物名も通称で表記している。